



2020 連合鳥取東部地協ピースウォークを開催

～ 戦後 75 年節目の年 平和を願い 誓い新たに!! ～

連合鳥取東部地協は7月22日(水)、平和運動の取り組みの一環として、「2020 東部地協ピースウォーク」を県民ふれあい会館において開催しました。平和行進(デモ)は雨で中止としましたが、コロナ禍の中、例年より規模を縮小し感染拡大防止対策を講じ、117人(退職者連合組合員含む)が参加しました。

今年は戦後75年の節目の年であり、～語り継ぐ戦争の実相と次世代への継承で、核兵器廃絶・恒久平和の実現をめざし～をテーマに朗読会「戦場から届いた遺書」を題材に、八百谷和子さん(八百谷コミュニケーションアカデミー代表)に75年前の過酷な状況下で命を全うされた方々の想いを、朗読を通して語っていただきました。

わたしたちは、二度と起こしてはならない悲惨な戦争のことや、平和の大切さを語り伝えていってほしいこと。あの痛ましい戦争を風化させないために改めて参加者と誓い合い「子どもたちに核兵器も戦争もない未来を」渡すために、平和について考える集会となりました。

また、今年はあらためて戦後を振り返り学ぶ機会として「連合・平和検定2020」を実施し、16人がチャレンジされました。ありがとうございました。



▲アピール採択
(政労連 戸次さん)

▲主催者あいさつ
(村尾議長)

～ 朗読会の様子 ～



▲八百谷さん



▲特別出演
(橋本副議長)

▲八百谷コミュニケーション
アカデミー・内田さん



☆サイレント平和行進用に参加者の皆さまに作成していただいたプラカード(一部)

「働くことを軸とする安心社会」を実現しよう

東部地協 2020 自然環境保全活動の開催 ～鳥取砂丘除草活動～

8月30日（日）早朝より、東部地協は自然環境保全活動の取り組みとして、鳥取砂丘での除草活動を構成組織から家族・子どもを含め82人で行いました。

この活動は、鳥取砂丘の草原化を防止するものです。第二次世界大戦後から砂丘地内の砂の移動を止め、農地を確保し、集落を守ることを目的に植林を開始したことから、砂の移動が大幅に制御され、砂丘の固定化がはじまり、植物が砂丘を覆い始めて雑草が繁茂し草原化してきました。鳥取市は、砂の移動を促進し、砂丘本来の景観を取り戻すため、外来植物の代表的なメヒシバやオオフタバムグラなどの定期的な除草がはじめられました。

午前7時30分より開会し、自然公園財団・砂丘レンジャー2人の先導で除草場所へ移動し、レンジャーから抜いてもよい草の種類の説明を受け、広い砂丘地でソーシャルディスタンスを保ち、皆で心地よい汗をかきながら除草作業を行いました。

暑い中40分にわたり作業した後、5万5千年前の地層の前で、皆で抜いたたくさんの雑草を前に広く間隔を取り記念撮影し、終了しました。今回の活動が砂丘の草原化防止に繋がり、また継続していく事で環境を守ることとなります。参加者のみなさん、炎天下の中お疲れさまでした。



▲間隔をとって集合写真

▲火山灰による地層

砂丘マメ知識

日本一と言われる鳥取砂丘ですが、面積が一番ではありません。

風と共に砂が動くことによって作り出される風紋やスリバチと呼ばれる窪地や砂簾など砂丘の本来の姿を残していること、起伏の大きい砂丘地特有の地形、動植物が見えることができ、まるで「生きている砂丘」といえることです。

起伏に富んだ地形が数多く存在します。「砂丘列」と呼ばれる砂の高まりが3つあります。海岸から第一砂丘列、第二砂丘列（標高約47m）、第三砂丘列（標高約60m）と呼ばれていて、第二砂丘列は馬の背中のように見えることから、「馬の背」と愛称で親しまれている。これらの特徴から、鳥取砂丘は日本一の砂丘とされています。

また、鳥取砂丘は、砂と砂の間に火山灰層が含まれています。記念撮影の場所は約5万5千年前に大山が噴火した際に降り積もった火山灰で大山倉吉軽石層と呼ばれています。